



## 次の50年に向けて

副学長 経済学部教授  
居神 浩



経済学部で労働経済論や社会保障論などを教えている居神と申します。大学の教員は高校や中学の先生のような教員免許をほとんど持っていないのですが、「研究」という高校や中学の先生には求められない専門的な仕事をしているため、「無免許」が許されているという次第です。そこでまずは私の研究のことについてお話します。

私のこの10年ぐらいの研究対象は「いろいろな理由で社会のメインストリームから外れたところにいる子ども・若者たち」です。具体的には、貧困世帯に暮らす子どもたち、学校卒業後、いったん就職はしたものの職場になじめず、フリーターやニートになっている若者たちなどです。

かれらが今どんな思いを抱えて日々を過ごしているのか、また私たちはどんなかたちでかれらをサポートしていくべきなのか、かれらを支援している様々な施設・団体への調査を通じて考えてきました。

その成果として昨年単行本として刊行したのが、『子どもの貧困/不利/困難を考えるⅡ』と『ノンエリートのためのキャリア教育論—適応と抵抗、そして承認と参加』の2冊の本です。いずれも編著者という全体の取りまとめと自分も何章か書くかたちで関わりました。

前者は同志社大学の先生を研究代表者とする大規模な「科学研究費プロジェクト」(日本学術振興会という公的な機関から研究費を頂いて行う調査)として3年間行った調査の集大成です。大学院生から中堅、ベテランの大学教員まで幅広い年齢層の研究者が集まり、それぞれの専門分野から「子どもの貧困」の実態に迫りました。

そこで一つ浮かび上がってきたのは、子どもたち自身が自ら置かれた状況のなかで立ち上がる・立ち直ろうとする姿でした。もちろん経済的な援助など、かれらを取り巻く環境を変えることも大事です。しかしそれだけでは十分ではない。子どもたち自身が自らの環境を変えるべく立ち上がろうとする力。これを社会全体としていかに育むことができるか、一つの政策課題として提起してみました。

この点に関して大変印象的な事例があります。現在、生活保護世帯の子どもたちに、自治体の支援を受けたボランティアが勉

強を教える会が全国的に普及しつつあります。特に高校受験を控えた中学3年生の生徒たちに受験対策を施す「中3学習会」は大きな成果をあげています(生活保護世帯の子ども

の高校進学率は相当低いのですが、中3学習会に通った生徒の進学率はほぼ100%です)。そのボランティアの主体は大学生であることが多いのです。

私も京都のある学習会に半年ほど「参与観察」(直接インタビューなどをするのではなく、その場に参加しながらそと観察する調査手法)を行いました。大学生たちの綿密な事前打ち合わせ、学習会終了後の一人ひとりの生徒たちへの振り返りなど、献身的な姿勢に感銘を受けました。それと同時に、大学生たちに教えられる生徒たちに大きな変化が見られたことが非常に印象的でした。最初のうちは勉強などする気がない、ただ単に大学生のお兄さん・お姉さんたちに学校であった嫌なことなどの愚痴を言いに来ていただけのかれらが段々とやる気を見せてくるのです。最後の方はみんな実に真剣に勉強に取り組んでいました。

何がかれらのそういった変化を生み出したのか。おそらくそれは大学生たちのかれらへの関わりのなかにヒントがあると思います。大学生たちは「学校の先生」のように決して「勉強しろ!」とは言わない。かれらが「これ分からん、教えて!」と言うまでひたすら待つのです。その言葉が出てくるためには、自分自身が「認められている」という経験と実感こそが大事だというのが参与観察から得られた大きな成果でした。

それを私は後者の本(『ノンエリートのためのキャリア教育論』)では「承認」という言葉で表現してみました。いったん社会のメインストリートから外れたしまった若者たち。かれらを再び社会のなかでどのようなかたちで迎え入れたら良いのか、それをこの本のなかで追究していったのですが、単に社会への「適応」を強いるだけではダメだということは明らかでした。かれら自身がこの社会から「承認」されているという感覚を持たない限り、この社会への主体的な「参加」はあり得ないというのが、この本の結論であり提言です。

〈次ページに続く〉

## 〈前ページから続く〉

ところでこの2冊の本については私なりの思い入れがあります。こういう研究書というのは比較的同年代の研究者が集まって書く場合が多いのですが、この2冊については20代後半の大学院生や子ども・若者支援の実務家の方々（京都市のユースサービス協会の若手職員さんたちが中心）に多くの章を執筆してもらいました。特に実務家の方々は日々の仕事を抱えながらですから、本当に大変だったでしょうが、現場の生の声を直接伝えることができたのは大変良かったと思っています。

大学院生の多くは大学の教員になり、実務家の方も所属を変えていたりしますが、今もお付き合いがあります。こういった若い世代の人たちに研究のいわばバトンタッチができたわけですから、これは研究者として実に喜ばしいことです。

私の大学院生時代の指導教官は「研究とは先人たちの積み重ねてきた山に小石を一つずつ乗せることだ」と言いました。私もようやく一つは乗せたかなと思います。後から来る人たちははもっとたくさんより大きな石を乗せてほしいものです。

さて次は大学教員としてのお話をします。

私がこの大学にお世話になったのは、今から20年前、阪神・淡路大震災の翌年のことでした。通勤途中、車窓から震災の爪痕が残る街並みを見ながら、垂水の校舎に通っていました。当時の学生さんたちは、当初思っていたより「元気」でした。ゼミが半期終わったあとの打ち上げコンパを自分たちでセッティングしたり、同志を募って新しいサークルを立ち上げたり、勉強はあまり熱心ではなかったかもしれませんが、それ以外は実に積極的でした。

ところが「就職氷河期」といわれる大卒冬の時代になるにつれて、学生たちの元気もどんどん失われていってしまいました。この時代は教える側にとっても実につらい時でした。しかしこの数年、大卒の就職市場が売り手市場になるにつれて、また学生たちの元気も少し復活してきたように思います。

それはかつてのようにコンパやサークルのようなかたちではなく、授業中にかねがが書くペーパーの内容に表れてきています。私は冒頭述べたように専門科目として労働経済論や社会保障論などを担当しており、日本の会社の仕組みとか高齢社会における年金・介護の問題などを教えています。学生たちには知識として「どうなっているか」だけでなく、この社会の問題として「どう思うか」「どうすべきか」ということを常に問いかけるように心がけています。それに対する自分なりの考えを、授業時間内に「ミ

ッツペーパー」(レポートのように時間をかけて書くものではなく、分単位で書いて提出するもの)として書いてもらうようにしています。以前はおぎなりの内容のものが少なくなく、読んでいてがっかりすることも多かったのですが、この数年は「これはよく考えているな!」という内容のものが多く、読むのが楽しくなっています。

もちろん就職対策向けに、SPIなどの一般常識試験の解き方やエントリーシートの書き方なども指導はしますが、それだけでなく、この社会に対して「何かおかしいな」と思ったことはハッキリ自分の言葉として表現できるようになってもらいたいと常々考えております。

いま大学教育には「役に立つ」ことが求められ、それはそれでももちろん大切なことなのですが、それだけではないように思います。実際すぐに役に立つことは、少し時間が経つとすぐに役に立たなくなることが非常に多いのです。すぐに役に立たないかもしれないが、将来的にすぐ役に立つことは何か?

「自分の頭で考え、自分の言葉で表現する」。シンプルなことですが、これこそが大学教育でやるべきことだと信じております。先に述べたように、学生たちは適度な問いを与えれば、しっかりと自分の頭で考え、表現の仕方はまだまだ拙いのですが、自分の言葉で一生懸命表現しようとしています。大学教員としては、こういう頑張りこそを評価していきたいと思っています。

いま大学は「冬の時代」を迎えようとしています。ご承知の方も多いと思いますが、2018年以降、大学進学年齢にあたる18歳人口が激減していきます。いまの大学進学率を前提とすると、大学の総定員枠より大学受験生の数の方が多くなり、定員を満たせない大学がどんどん増えていきます。多くの大学がそのような現状を前に必死に「生き残り」を試みようとしています。本学もそうですが、単に生き残りをはかるだけでなく、この社会から真に必要とされる大学になりたいものです。

2018年、本学は創立50周年を迎えます。この50年間、本学が社会に対して貢献してきたものは何であるかをきちんと踏まえたうえで、次の50年に向けて社会に対してどんな貢献を果たしていくべきか、教員全体で考えていくべきでしょう。

最後に、私は本年4月より下村雄紀新学長の下、副学長の職に就いております。いま次の50年に向けて、本学が取り組まなければならないことをいろいろと考えております。どうか皆様方のお力添えの程、宜しく願い申し上げます。

# 2016年度 新任教員(専任)教員紹介

## 経済学部

つじ まさ つぐ  
**辻 正次 教授**



**担当科目**

国際経済学、  
アジア経済論、  
開発経済学  
など

せ こ えつ よ  
**瀬古 悦世 准教授**



**担当科目**

日本語中級、  
日本語上級、  
ビジネス日本語  
など

やま もと  
**山本 ひとみ 准教授**

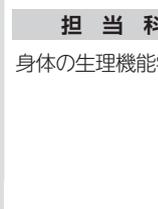


**担当科目**

マーケティング・  
コミュニケーション論、  
ファッション心理、  
ファッション生活論、  
消費者心理 など

## リハビリテーション学部

やぎ とも ひと  
**八木 知人 教授**



**担当科目**

身体の生理機能学演習  
など

# 留学生ニュース

## 新入生歓迎会



2016年5月14日(土)新入留学生歓迎会が開催されました。新入留学生と日本人学生との交流を目的とした「ドッジボール大会」が実施されました。学部新入留学生(中国、ベトナム、ネパール、モルドバ、タイから来た)と日本人学生総勢60名も参加しました。



ドッジボール大会



## 学事予定・学校からのお知らせ (9月～3月)

- 学事**
- 9月22日(木) 9月卒業式
  - 9月20日(火)～24日(土) 集中講義(現代経済入門再履修クラス)
  - 9月26日(月) 後期授業開始
  - 9月26日(月)、27日(火) 教務ガイダンス
  - 9月26日(月)～10月1日(土) 後期「履修登録・変更」期間
  - 10月4日(火) 秋季入学生 入学式
  - 10月10日(月) 【体育の日】通常授業実施
  - 10月27日(木) プロゼミⅠ・Ⅱ説明会(経済)
  - 11月3日(木) ゼミナールⅠ・Ⅱ説明会(経済)
  - 11月3日(木) 【文化の日】通常授業実施
  - 11月8日(火) 全日休講(入学試験のため)
  - 11月23日(水) 【勤労感謝の日】通常授業実施
  - 12月22日(木) 冬期休暇前最終授業
  - 12月23日(金) 冬期休暇開始
  - 1月6日(金) 冬期休暇明け授業開始
  - 1月13日(金)、14日(土) 全日休講(大学入試センター試験のため)
  - 1月25日(水)、26日(木) 全日休講(入学試験のため)
  - 1月28日(土) 後期授業終了
  - 1月30日(月)、31日(火) 後期補講期間
  - 2月1日(水)～7日(火) 学年末・後期【定期試験】期間
  - 2月中旬 特別クラス進級テスト(経済)
  - 3月初旬 卒業判定会議(両学部)
  - 3月22日(水) 学位記授与式(両学部)

- 成績** 2016年度末学業成績通知は3月中旬ごろ郵送します。(保証人住所宛)  
お問合わせ: 教学センター教務 078-845-3500
- 学費** 後期学納金振込用紙送付予定 9月中旬  
お問合わせ: 管理運営センター 078-845-3111
- 入試** 2017年度の入試要項配布中です。  
お問合わせ: 入試広報センター 078-845-3131

### 保護者相談会の開催予定(教学センター・キャリアセンター)

この相談会は個別面談方式です。教員および教務担当・キャリア担当職員が保護者の方からのご質問にお答えする形で行います。学生のみさんのカリキュラムなど勉学制度、成績表などの見方や就学状況、また就職活動などについてご説明をさせていただきます。開催の1か月前に保護者あてにご案内します。

9月9日(金)	地方会場	岡山
9月10日(土)		広島
9月17日(土)	本学(1年対象)	
11月19日(土)	本学(全学年対象)	

※地方会場には教員は同行いたしません。

## 2016年度 就職ガイダンス スケジュール

No.	時期	時限	講座名称	No.	時期	時限	講座名称
1	9月29日(木)	4	実践的な就活の進め方(実践編)	9	11月24日(木)	4	企業の採用担当者の視点を知らう《企業人事担当者のホンネ》
2	10月6日(木)	4・5	自己分析の活用と自己PR作成(基本編・応用編・ワーク)	10	12月1日(木)	4	面接マナー基本講座
3	10月13日(木)	4	エントリーシート対策講座	11	12月8日(木)	4・5	模擬面接会①バーチャル企業説明会
4		5	インターンシップ事後研修会	12	12月15日(木)	4・5	模擬面接会②バーチャル企業説明会
5	10月20日(木)	4	男子:リクルートスーツ着こなしセミナー 女子:メイクアップ講座	13	12月22日(木)	4	内定者報告会(ホンネトーク)先輩内定者からのアドバイス
6	10月27日(木)	4・5	ビジネス基礎研修Ⅱ	14	1月12日(木)	13:30 16:00	企業研究セミナー①
7	11月10日(木)	4	企業の採用情報の見方と分析	15	1月19日(木)	13:30 16:00	企業研究セミナー②
8	11月17日(木)	4・5	面接対策講座(個別面接・グループ面接・グループディスカッション)				

<b>冬期集中講座</b> ※1泊2日	12月17日(出)	冬季就活合宿集中講座 第一日
	12月18日(日)	冬季就活合宿集中講座 第二日

<b>集中講座</b> 後期	2月中旬	筆記試験対策講座(4日間集中)
	2月下旬	面接対策講座(1日完結)

※日時・内容については変更になる場合があります。



内定を勝ち得た先輩たちが口をそろえて言うのは「就職することへの強い意識と早いスタートが勝因!」です。

発行 神戸国際大学 保護者会 後援会  
〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中9丁目1番6  
神戸国際大学 教学センター内  
TEL 078-845-3110